

## 平成30年度 第1回狹山市環境審議会 会議録

開催日時	平成30年11月20日(火)午後1時55分～3時20分
開催場所	市役所6階 602会議室
出席者	田邊仁委員、相良純子委員、相澤睦夫委員、片田真一委員、 新井孝子委員、大貫裕子委員、小川洋之委員、金原弘幸委員、 近藤彰男委員、坂本比佐夫委員、仲川知範委員、平林達二委員
欠席者	関根沙織委員、照沼拓委員、廣中尚子委員
市側出席者	吉田環境経済部長、神田環境経済部次長、立川資源循環推進課長、 吉田奥富環境センター所長(稲荷山環境センター所長兼務) 遠山みどり公園課長、 小川環境課生活衛生担当主幹、町田環境課環境保全担当主査
事務局	丸井環境課長、山崎同課主査、桑原同課主査、山元同課主事補
傍聴者	0名
報道	0名

### 議題

- (1) 平成30年度版(29年度実績)狹山市環境レポートについて(公開・~~非公開~~)
- (2) 環境関連主要施策の進捗状況について(公開・~~非公開~~)
- (3) その他(公開・~~非公開~~)

## 質疑（会議の経過）

### （１）平成 30 年度版（29 年度実績）狭山市環境レポートについて

委員 市の事務事業の実施に伴う温室効果ガス排出量で、平成 29 年度は一般廃棄物の焼却に伴う温室効果ガス排出量が増加したため、全体としても増加につながったという件について、稲荷山環境センターに CO<sub>2</sub>を削減する施設を導入するという話を聞いているが、導入したのかこれからなのか、可能性としてどのくらい CO<sub>2</sub>削減がされるものなのか、わかる範囲で教えていただきたい。

説明者 CO<sub>2</sub>削減のための基幹改良工事を、補助金を得て行っており、今年度、小型蒸気発電機を 2 台導入し、設置を終えたところである。来年早々には発電を開始する予定。

委員 騒音調査について、航空機騒音に係る環境基準達成率が 50%という値が出ているが、これは飛行機の離発着が前年より増えているとか、そういった傾向は調査されているのか。私は新狭山に住んでおり、確かに最近ものすごく騒音が気になるのだが、どうなのか。

説明者 この結果は、これまで基準が守られていたものが急に 50%と悪い結果になったのではなく、ずっと同じような結果である。航空機騒音を測っているので、自衛隊の基地があるという状況の中、基準がいつも守られるわけではなく、変わらない状況にあることがこの調査から伺える。

委員 離発着が増えたとかそういったことはないのか。

説明者 離発着の回数そのものは特に大きく変わりはない。ただ、最近の傾向として、旋回性能など飛行機の性能が良くなり、かつてのフライトラインとは若干変わりつつあることが考えられる。航空機騒音の測定に関しては、これまでの定点観測に加えて、そういった変化も併せて適宜対応ができるようにしていきたいと考えている。新狭山方面は、航空自衛隊の飛行機以外にも最近県警のヘリが飛んでおり、それが全く違うフライトラインを取っていて、入間基地から直線的に東の方へ飛んでいくということで、前より音が気になるのではと思われる。あとは、大型の輸送機が新しい機種に代わったということで、大きさは大きくなったが、航空機騒音そのものはかなり軽減されていると聞いている。

委員 新たに緑地を確保したとのことだったが、どの場所なのか。

説明者 取得した場所は、堀兼・上赤坂周辺、ふるさとの緑の景観地内の緑地である。緑の基本計画内で堀兼・上赤坂公園の周辺を公有地化の重点地区と定

めており、民有地だったところを公有地化したものである。

委員 環境基本計画に掲げられた基本目標に向けて少しずつでも着実に頑張られており、頼もしいなと思った。今、いろいろな現場で、国連が採択した持続可能な開発目標 SDGs が掲げられ、国や各自治体もそれぞれ具体的な話をしていこうという感触を受ける。少し前までは生物多様性条約や地球温暖化対策などバラバラだったものがかなりまとまり、国としてそれらに向かっていく中で、この計画はずいぶん当てはまる部分が多いが、それらとの整合性や、どのように組み合わせていくのかをお聞きしたい。

説明者 国連で掲げられた SDGs は、政府も本部を置き指針を定め具体的施策を盛り込み、今後地方自治体にも関連してくるが、狭山市はまず埼玉県がどのように基本計画の中に取り込んでいくか、それと並行して市町村レベルでどのように組み合わせていくか、計画の基本的な考え方は循環型社会や SDGs の思想があるが、具体的施策や目標・指数の捉え方に若干ずれがあるので、再来年度から行う第 3 次狭山市環境基本計画策定の中ですり合わせていきたいと考えている。

委員 すり合わせをするぐらいで、環境基本計画の方向が（SDGs と）合っているのだろうと思う箇所に出会うので、環境以外の他の政策との関係もあると思うが、どうぞこのまま頑張っていただきたい、期待している。

委員 大雨時の不老川氾濫防止のための工事を県の予算を取って進めていると思うが、進捗状況をご存知の方がいれば教えていただきたい。

説明者 西部環境管理事務所では不老川の生活排水関係の協議会があり、そこで報告を受けた内容としては、6 年計画である不老川改修計画の 1 年目の進捗状況は約 20%とのことである。下流部からの工事になるので、狭山市・入間市は 6 年計画の 3 年目からになるであろうと、川越と飯能の県土整備事務所から話があった。

## (2) 環境関連主要施策の進捗状況について

委員 狭山市住宅用省エネルギーシステム設置費補助事業について、過去 3 年間で申請が 0 件のシステムも何点かあると思うが、これに関して今後も続けていくのか、今回ガスエンジン給湯器（以下「エコウィル」という。）を外したように、入れ替えをする予定はあるのか。

説明者 現在の補助金対象システムの中では、地中熱利用システムや電気自動車等充電システムが該当するが、エコウィルを外し、HEMS を導入して成果が出

ているように、今後の推進に向けて要綱改正の際に見直していく予定。ただ、補助事業はシステムの啓発も図っており、たとえ申請がなくてもこういったシステムもあるということを知っていただく意味も含めているが、いただいた意見を参考に、改正を進めていきたいと考えている。

委員 直近でシステムを入れ替える予定はあるのか。

説明者 昨年度要綱を見直したばかりであり、基本は3年に一度の改正である。

委員 自治会の幹事会で、猫の不妊・去勢手術を積極的に行っている自治会があると聞いたが、自治会単位で狭山市飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費補助金への申請があるのか。

説明者 自治会単位ではないが、11月に水富の自治会役員から申請があった。昨年度、水富地区で地域猫活動について環境課で出前講座を行った関係もあり、猫の不妊手術や手術後の見守りについては、地域の方々の協力が必要不可欠であることから、非常にありがたく感じている。

説明者 平成29年度でいったん県のモデル地区となっている智光山公園での補助金交付事業が終了することから、他の地域でもそういった活動については努力していきたいという話を、自治会の幹事会で水富地区からいただいたので、そういった意見も踏まえ、今年度から新たに全ての地域において可能であるかたちで取り組みを見直したところである。

委員 同じく猫の関係で、個人の方が家の周りにいる野良猫を捕まえるなど、個人への補助はあるのか。

説明者 猫の補助金申請は個人単位でお願いしている。狭山にお住まいの方が猫を捕まえて病院へ連れて行き手術を受けさせた方が補助金の対象。また、猫を捕獲するにあたり捕獲器を使うなど、個人だと難しい部分があり、ノウハウを持つ団体の助言を得るなど協力をいただいた上で実施することもあるが、補助金自体は個人申請である。

委員 地域の協力があって初めて効果がある施策だと思うので、連携もなくバラバラに個人の方へ交付すると、せっかくの補助金の効果が薄まるのではと感じた。

説明者 個人申請ではあるが、申請者に対し補助金の説明をする際、地域の方に回覧等で野良猫を捕獲して不妊手術を行うというPRをしていただき、地域の方の協力をいただくよう話している。手術後の野良猫にいろいろな方がエサを与えると、散らかったり残ったりする可能性もあるので、エサやりのルール、糞尿の掃除当番など、地域で役割を分担していただくのが理想の姿であることから、自治会単位、班単位で活動に取り組んでいただくと非常にありがたい。そういった助言をさせていただいている。

### (3) その他

委員 環境省の立場から、今年度の初めに第五次環境基本計画が策定されたが、その中で一番の柱として位置づけているのが、地域循環共生圏という言葉である。地域循環共生圏自体、はっきりとした施策のイメージができていない状況だが、恐らく国の環境基本計画が変わったことにより、地域の環境基本計画へも反映していくと思われる。先ほどの話にも出た SDGs とも関係があり、現行の第 2 次狭山市環境基本計画もその要素を全部含んでいるので、環境レポートの中で各施策を点検して説明するというのも、遠くない将来に必要なようになってくるということで、具体的なことはすぐに申し上げられないが、環境省の最新の情報として宣伝させていただく。

委員 私はこのところ、子ども達への環境教育が本当に大切であると感じている。先日もリサイクルマーケットで子ども達がたくさん集まって、環境ゲームや環境クイズに反応している姿を見て、やはり数字で良くなったというだけではなく、接点を持つ機会をつくるのが大事だなと。NPO 法人さやま環境市民ネットワーク（以下「さや環」という。）で今週 24 日に環境ウォークを開催するが、ウォークコースである森の安全点検を行った際、倒木がたくさんあり道を塞いでいた。ボランティアが定期的に倒木を切断して道を開けたりなど、リタイアした 70 歳を超える方々が、そういうことを本当に生き生きとしていらっしゃる姿を見ている。さや環の中の緑の分科会、川の分科会はいつも子ども達を集めていろいろなことをするが、そういった接点というものを市が援助したり、企画に賛同して補助したりという姿勢ができて、一番それを望んでいる、実行する側をフォローしていただけたら、喜んで接点を持ちたいけれど、時間も経済も大変というのがあると思う。市の方向として、子ども達の環境教育に対する何かの提案ができて、それが市民団体に反映して実行できたら少しいいかなと今感じているので、お願いしたい。

説明者 貴重な提言ありがとうございます。確かにおっしゃる通り、我々も次世代を担っていく子ども達への環境教育に重きを置いて、教育委員会と連携して既に環境教育には取り組んでいるが、もう一步踏み込んだ環境教育の在り方をカリキュラムの中に取り込んでいくという働きかけをして参りたいと考えている。

委員 一昨年の環境基本計画改定時のアンケート調査で、特に小学生は、環境よりも便利さを選ぶ傾向がどんどん上がっているという結果が出ており、環境に対する姿勢が悪くなっている可能性がある。ぜひ、若い人に向けて何かできたらいいなと思っている。

委員 日頃から思っていることだが、生ごみバケツが出た時には、まるで強制かのような勢いで全員がバケツを持って生ごみの日に出していたが、どんどん減っていき、当自治会でもだんだん高齢化が進んでいくと出すごみも少なくなっていく、また、そういう方の家が売りに出されて新しく若い世代が入ってこられると、その若い方に「これなあに？」と聞かれることがある。東京など狭山市外から入ってくるからだが、環境委員は毎年交代しており、自分は直接的に環境委員ではない立場上、どういう風に伝えていけば良いのか。例えば、もう市からの動きがないということはやめてもらいたいのか、うまくいかない事業だからやめにしていく方向であると言われたら、返す言葉がない。私自身はずっと続けているけれども、生ごみというものがどれだけ水分を含んで、焼却するのにどれだけエネルギーを消費し負荷が掛かるかなど、最初の時から関わり知っているからこそ、住んでいる者として一番いいかたちで、そういう方たちにお伝えしたいと思うけれども、それができないのがいつも残念と感じている。

説明者 資源循環推進課では、ごみの減量に取り組んでいる中で、家庭から排出されるごみの中ではもやすごみ、特に生ごみを減らしたいということで、生ごみバケツを使って家庭の生ごみをたい肥化するという、全国的にも珍しい取り組みとして狭山市は積極的に行っており、決して消極的になっている訳ではない。結果的に参加世帯数が伸びない、排出量が近年減りつつあるという傾向はあるが、イベント時に出来上がった一次生成品をサンプルとして無料配布し皆様に呼びかけ、自治会等へも出向き説明会等も行っている。各自治会から推薦いただいている廃棄物減量等推進員の方々にも生ごみリサイクル事業の内容を紹介しており、機会があれば自治会内で説明していただくようお願いしている。必要があれば職員にお声掛けいただき、出前講座や説明会を行うなど、機会をとらえて多くの方に積極的に PR していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

委員 私は会社で環境総合責任者を 4 年ほど前からやらせていただいている。それまでは車の製造ラインで設備を造っていたが、環境総合責任者になってから、環境について勉強し、気候変動に伴う温室効果ガス削減の方向性の大きな流れなどからすると、企業としての役責はやはり正しい方向性をきちんと出す必要がある。車がなくなることはなく、他の移動手段もなくなることはないと思われる中、製造エネルギーは使っても CO<sub>2</sub> や廃棄物を出さないのは非常に難しいけれども、そこを見定めていかないと SDGs に沿っていく企業活動にならないので、たとえ自分が会社にいる間には達成できなくとも、世の中で言われている 2030 年、2050 年という目標にちゃんと落としどころをつけ

られるような企業活動ができるよう意識している。そんな姿勢で臨んでいるとともに、地域の皆様と一緒にやっていかなければならない部分もあると思われるので、その際にはよろしくお願ひしたい。

○環境レポートについて

- ・平成 30 年度発行分はこれまでの慣例に基づいて年号を和暦表記にしているが、来年の改元が決定しており、環境問題はグローバルかつ長期的な視点を示す機会も多いことから、平成 31 年度以降は西暦表記にすることを予定している。

○審議会資料について

- ・環境基本計画や環境レポートなどの冊子は引き続き配布するが、会議資料等は、電子化で圧縮するなど、できる限りペーパーレス化の推進を予定している。

○燃料電池自動車（FCV）について

- ・来年度の審議会開催日に日程を合わせ、埼玉県から燃料電池自動車ホンダ クラリティを借り上げ、究極のエコカーに直接触れることで環境テクノロジーを実感していただく機会を、可能であれば作っていきたいと考えている。

## 会議資料

(配布資料)

- 狭山市環境審議会委員名簿
- 環境経済部等職員名簿
- 狭山市環境審議会規則
- 狭山市住宅用省エネルギーシステム設置費補助事業
- 公害に関する相談、苦情件数
- 狭山市飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費補助金交付制度（概略版）

(手持ち資料)

- 第 2 次狭山市環境基本計画 改定版
- 平成 30 年度 狭山市環境レポート